

令和5年 11月30日

大河原町議会議長 岡崎 隆 殿

文教厚生常任委員会

委員長 佐藤 巖

所管事務調査報告書

本委員会は、調査中の案件について下記のとおり調査を終了したので、大河原町議会会議規則第76条の規定により報告いたします。

記

1. 開催の日時 令和5年11月29日(木)午前10時

2. 開催の場所 大河原中学校

3. 出欠委員の氏名 佐藤 巖 大沼 常次 秋山 昇
出席委員 山崎 剛 中村 淳 佐藤 暁史

欠席委員 丸山 勝利

4. 説明のため出席 大河原中学校 校長 佐藤 亨
した者の職氏名 同 教頭 森下 博史

教育総務課 課長 櫻田 尚
同 教育専門監 小野寺 淳一

5. 議会事務局の出 議会事務局長 齋 修
席職員の職氏名 同 局長補佐 伊藤 みどり
同 主事 佐藤 邦彦

6. 所管事務の調査事項

- (1) 大河原中学校の現状と課題について
- (2) 学校の施設設備等の現況について(現地確認)

7. 調査の内容

(1) 大河原中学校の現状と課題について

① 職員構成の課題及び働き方改革への取組

■学級数

○中学1年生については、県の施策である「学級編成弾力化事業」により、本来ならば5学級であるところを6学級になっている。しかし、この事業は中学1年生のみが対象であり、それ以降は本来の5学級に戻るところを町の施策によって加配教員2名を配置してもらっているため、2学年以降も6学級を維持できている。

■生徒の活躍(スポーツ面)

○野球部が県新人大会で優勝を収めた。今秋の1、2年生対象の新人大会はこれまでの郡や地区単位の大会ではなく、大河原管内全体での新人大会ということで参加校は20校におよんだ。その中で大中は7つの部が優勝、3つの部が準優勝という好成績を得た。

■学校経営と重点努力事項

- 「立志式」を中心とした志教育の充実を図っている。生徒は将来に対しての希望、夢などを持っている比率が全国の数値より高く、志教育の成果が表れているのではないかと考えている。
- 生徒に「自律」できる態度を育成させたいと考え、校内では「ノーチャイム」を実践している。また、校則の見直しを生徒代表も参加させて行った。
- 文科省調査の全国学力、学習状況調査の結果では、国語が全国平均の数値より若干上回ったものの、数学は下回っている現状にある。

■学校管理運営上の課題

○不登校生徒の対応

不登校の原因は様々であり、不登校生徒一人一人に応じた対応を取らなければならないので、関係機関、SC、SSW等と連携を図りながら取り組みをしている。

○職員の「働き方改革」については、会議の進め方や行事、授業の弾力化などの取組により、時間外勤務は減少している。時間外勤務0時間は難しい。

○生徒の問題行動等の調査結果(文科省調査)

- ・暴力行為 1件(器物損壊)
- ・いじめの認知件数 4件
- ・30日以上欠席者数 57名(病欠8名、不登校41名、その他)

※不登校生徒のうち、90日以上欠席している生徒は19名

■学校施設設備、備品等の状況

○補修等が生じた場合は、町教委が相談に乗ってくれ迅速に対応してもらっている。築年数が高く、小破修繕が多くなっている状況である。

② 説明を受けての質疑

Q 新設されたテニスコートは完成したのか。また、グラウンドの水はけが悪いと聞いているが状況はどうか。

A 工事自体は完了している。完了検査を待っているところである。予定では12月中

旬には引き渡しができるのではないかと考えている。グラウンドの水はけが悪いとのことだが、学校のグラウンドは大体がそんなものであると思っている。

Q 不登校生徒について

- ①小学校で不登校だった児童が中学生になっても不登校になっているのか。
- ②生徒の肥満の現状はどうなっているか。
- ③グラウンドと民家等の境に設置した防球ネットについて、どのような経緯だったのか。

- A
- ①小学校で不登校だった児童は中学生になっても不登校になる場合が多い。不登校生徒の中には、直接に会うこともできない、連絡も難しい生徒もいて対応に苦慮している。
 - ②本校だけでなく、宮城県全体で肥満が多い結果になっている。体育の時間はもとより、肥満に陥る生活習慣を改めるよう様々な機会を通して取り組んでいる。
 - ③防球ネットについては、当初の計画では双方向とも3本ずつの配置だったが、予算の関係上、あと1本追加設置できることになり、学校との協議により、片方だけに1本多く設置した形になった。

Q ①職員間のセクハラ、パワハラはあるか。

- ②施設設備で今後要望することはあるか。
- ③子どもの視力低下がテレビで報道されたが、本校の生徒についてはどうか。

A ①これまでは発生した事実はない。

- ②施設設備の要望については特段ない。
- ③子どもの視力低下に関しては、事実だろうとは思う。スマホの使い過ぎも一つの原因になっていることと思う。

Q 部活動の加入状況はどうなっているか。大中の場合、一つの部当たりの部員数が多いために、いろいろな問題が発生することが考えられるが実態はどうか。

- A
- 令和3年度までは原則、全生徒が部活動に加入することとなっていたが、4年度から任意加入になった。今年4月の段階で部活動に加入しなかった生徒は27名いた。未加入の生徒の中には、クラブチーム所属や習い事等の理由で入部しなかった生徒も存在する。なお、部員が多いためにレギュラーになれない等の悩ましい問題はあるが、各部とも練習試合等で試合に出場させるなど、配慮はしているものと思う。

Q 部活動に係る経費はどうなっているのか。

- A
- 中体連の負担金についてはこれまで生徒数を母数として算出しており、文化部員であるにもかかわらず、柴田郡中学校体育連盟へ保護者に負担してもらっていた。しかし、現在は運動部に所属している生徒のみに負担してもらっている。それぞれの部が活動のために使うものは部費ということで生徒から徴収している。また、県大会や東北大会等の上位大会に出場した場合は、町からの補助がある。

ただし、今後の課題としては中体連主催の大会であっても、学校単位の「部」だけでなく、クラブチームとあって、学校や市町を超えたチーム編成をしていた場合の補助のありかたのルール作りが必要になって来るものと思われる。

Q ①いじめの認知件数が4件というのは少なすぎるのではないか。認知方法はどのようにしているのか。

②英検の受験者数は。

③学校に来るクレームや苦情の内容は。

④グラウンドが広く、夏季の草刈り等の整備はどのようにしているのか。

A ①認知方法としては毎月アンケートを実施している。

②英検の受験者数については資料が手元にない。

③学校へのクレームはほとんど無い。あるのは自転車の乗り方や隣接する公園の使い方についての苦情の連絡はある。

④グラウンドの整備は適宜行っており、現状が適正な状態であると考えている。

(2) 学校の施設設備等の現況について(現地確認)

○ 音楽室は2つあるが、1つの教室にはエアコンの設置がない。

○ トイレ清掃は、ほぼ毎日外部の方が来て掃除をいただいている。

○ 職員会議は会議に使用できる部屋がないので、職員室で行っている。

○ 新しくできたテニスコートだが、水はけが悪い。

○ 美術室には暖房はあるがクーラーがない。

8 まとめ

(1) 大河原中学校の学習塾に通っている生徒は半数に満たないのではないか。

(2) 学校給食の未納者は、給食費の収受が公会計になったことから、把握していない。

(3) タブレットを利用した授業は多いと感じている。

(4) 南小学校学区の生徒は自転車通学が許可されている。